

里村穰の国語科（第5学年）研究計画

1 本研究の位置付け

本研究では、第5学年国語科「読むこと」での説明的な文章（以下、説明文）を教材とした学習において、**筆者の考えを比べ読むことで、自分の考えを形成する子ども**を目指す。「筆者の考えを比べ読む」とは、類似する話題について異なる視点で書かれた二つの説明文を順に読み取り、読み取った二人の筆者の考えを比べ読むことである。「自分の考えを形成する」とは、類似する話題についての二人の筆者の考えを関連付けて、筆者の考えに対する自分の考えをまとめることである。

学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」(1)目標では、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせる」とあり、「内容や要旨をとらえながら読む能力」とは、「目的に応じて複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握するとともに、自分の考えをまとめる能力を育成することを求めている」とある。複数の文章を読んで自分の考えをまとめることは、「知識基盤社会化・グローバル化」と言われる21世紀を生きる子どもにとって大切な学習である。また、学習指導要領改訂で国語科が特に重視した「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」につながる。

これまでの説明文の学習でも、筆者の考えに対する自分の考えを形成させる活動を行っている。しかし、筆者の考えに対する自分の考えをなかなか形成できない子どもも見られた。その原因は、筆者の考えを読み取らせた後、筆者の考えに対する自分の解釈を行わせることが足りず、筆者の考えに対する自分の考えを形成するための手がかりを十分につかませていなかったからである。

そこで、本研究では、単元の中で、類似する話題について異なる視点で書かれた二つの説明文を教材（教材文 A と教材文 B）として扱う。説明文を順に読ませ、読み取った筆者の考えを比べ読ませる。類似する話題に対する二つの考えを比べることで、子どもは、二つの考えの相違点や共通点を探ろうとする。相違点を見付けることで、筆者の考えと事例との関係性を考えて筆者の考えを解釈したり、共通点を見付けることで、二人の筆者の考えを束ねて筆者の考えを解釈したりすることができる。筆者の考えに対して解釈を行うことで、自分の考えの手がかりをつかむことができる。

このように、類似する話題について書かれた二つの説明文を読み、二人の筆者の考えを比べ読むことで互いの筆者の考えの相違点や共通点をつかみ、筆者の考えに対して解釈をする子どもは、筆者の考えに対する自分の考えを形成する子どもとなる。

2 主張する働き掛け

まず、単元を貫く言語活動を設定する。設定する言語活動は、自分の考えを表現する活動とし、自分の考えを形成する目的意識を明確にもたせてから、説明文を読ませる。

次に、一つ目の説明文の題名を提示し、題名から、読む文章の内容と筆者の考えを予想させる。子どもは、題名に使われている言葉から文章の内容を考え、「この題名から考えると、筆者は、○の○のことについて書き、きっと□□という考えをもっているだろう」と筆者の考えを予想する。

そして、予想した文章の内容と筆者の考えを基に、一つ目の説明文を読ませる。内容を文章構成図にまとめさせ、筆者の主張する考えをつかませる。子どもは、初めに予想した筆者の考えと読み取った筆者の考えとを比較することで、相違点や共通点を見出し、一つ目の説明文の筆者の考えを明確につかむ。

この段階で、二つ目の説明文を提示し、一つ目の説明文と同様に筆者の主張する考えをつかませる。子どもは、一つ目の説明文を基に二つ目の説明文を読む。文章内容の違いから、筆者の考えの違いも認識している。しかし、二人の筆者の考えの共通点は、まだ明確にはつかんでいない。子どもは、「二人の筆者の考えは分かった。この考えに対して自分はどんな考えをもてるだろう」という意識でいる。この状態を問いをもった状態とする。この状態の子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

それぞれの筆者の考えの共通点を問う。

共通点を問うことで、筆者の考えに対する自分の解釈をさせる働き掛けである。子どもに「二人の筆者の考えには、どのような共通点があるでしょうか」と発問する。子どもは、筆者の考えを**共通点という視点で比較して分類**しようと、比べ読む。しかし、表記上の読みだけでは、筆者の考えの共通点は挙げられない。筆者の考えの叙述に対して、自分の解釈を加える必要が出てくる。そこで、「筆者の考えを自分の分かる言葉で書き換えてみましょう」と追い発問をする。子どもは、筆者の考えの言葉一つ一つの意味を考えながら、自分の分かる言葉に書き換えていく。自分の言葉に書き換えた二人の筆者の考えを比べ読み、そこから共通点を考えることで、「二人の筆者の考えのこの部分は、〇〇ということを行っているのだと思う。つまり、どちらの筆者も、〇〇ということが考えの中に入っているということだ」と、筆者の考えに自分の解釈を加え、自分の考えの手がかりをつかむ。

働き掛け2

ワークシートに筆者の考えの共通点と、その根拠となる解釈を書かせ、発表させる。

書かせることによって、筆者の考えに対してどのような解釈をしたのかを意識付けさせることができる。また、発表させることによって、他の人の解釈を知ることができ、他の人の解釈を参考に、筆者の考えに対して多様な解釈をさせることもできる。自分や他者の解釈を手がかりに、子どもは、**二人の筆者の考えを共通する点で関係付けて**、自分の考えを形成しようとする。この子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

筆者の考えに対する自分の考えを記述させる。

筆者の考えに対して解釈をし、考える手がかりをつかんだ子どもに、自分の考えを記述させる。「二人の筆者の考えを自分の分かる言葉に置き換えてみると、〇〇という共通する考えが分かった。この共通する部分で考えてみると、わたしは、□□という考えをもった」と、二人の筆者の考えを比べ読み、互いの考えの共通点を探る中で、筆者の考えに解釈をし、考える手がかりをつかんだ子どもは、自分の考えを形成するのである。

3 検証

(1) 検証すること

- ① 活用の場面で、構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、類似した既存の知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、目指す姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け2において、共通点という視点で二人の筆者の考えを比較する際に、筆者の考えに対して解釈を加えて共通点を探ることができたかをワークシートの記述内容から検証する。
- ② 働き掛け3の後で、目指す姿になったかをワークシートの記述から検証する。

4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「森林について考えよう」(10時間)
- (2) 中間検討会(8月) 「生き物の特徴について考えよう」(10時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「メディアについて考えよう」(12時間)